赤い炎の暗殺者《スペース・レインジャー③》
仁賀克雄
朝日ソノラマ（文庫）
（4／30刊・¥360）

スペース・レインジャーシリーズ第三弾。本書以前に『白い女神の復讐』『黒の三角宙域』の二作が刊行されている。第一作が出たのは三年前。クケルとクマソという、ヤマト族の血を引く二人のスペース・レインジャーが、ポセイドン星系を舞台に繰り広げる冒険物語。登場人物や事物が多彩なのが、特徴だろう。事件が一本調子で進まず、いろいろな枝道にわたって広がっていく。ただし、ある意味では、畳み掛ける迫力に不足していて、スケールが小さな感じがする。ちょっと、主人公の頭も悪いんじゃないだろうか（あまりに簡単なワナにはまりすぎるんですよ）。

著者は古くからの翻訳家でもあり、SFに精通している。ボブ・ロバートスン（ハインライン？）の「地球の緑の丘」とか、さまざまなクスグリもあって楽しい。しかしその分、既存のスペースオペラの裏をかこうとした分で印象を弱めてしまっている。前述のこと たところがあって、裏をかききれなかった部の他、例えばスペース・レインジャーの設定が、他国の政治に介入したりする割には、物語の中で極めて曖昧だ。もう少し改善できたのではないか。（後）